



校長室だより

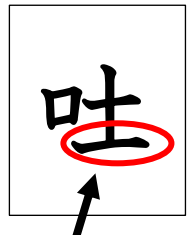
第 4 7 号
令和4年2月16日(水)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

夢を語れる学校

コロナ関係ではいろいろと御心配をおかけし、御協力をいただきました。心より感謝申し上げます。職員の3回目のワクチン接種は進んでおりますが、感染の拡大は止まりません。学校としてはこれからも感染対策をしっかりと行ってまいります。御家庭でも引き続き手洗い、検温等、子供たちの健康状態の把握の御協力をお願いします。

さて、今日の2校時、6年生に授業をしました。そして、こんな話をしました。「夢を言葉にして吐き続け、マイナスを取ると夢は叶う。」

「吐く」という漢字の「土」の下の横画（マイナス）を取ると「叶う」という漢字になります。自分の夢を言葉として表す、言葉として吐き続けることが大切だと思います。そして、マイナスを取るということは、常に前向きに考えて行動する、くじけても何度でもチャレンジすることにより、夢は叶うよ。という内容でした。6年生は真剣に話を聴いてくれました。



この部分

私は、小学校5年生、6年生の時に持ち上がりで、同じ担任の先生に受け持ってもらいました。阿部先生と言います。5年生になって阿部先生に教えてもらって、阿部先生のがとても好きになりました。そのうちに、阿部先生のような小学校の先生になりたいと強く思うようになりました。親にも、中学校や高校の先生にも「小学校の教員になりたい。」と言いつけていました。小学校5年生からずっと変わらずに夢をもち続けていました。

恥ずかしい話ですが、私は大学に入るために2浪しています。さすがに2浪目となると、親も別の道を勧めるようにもなりました。しかし、小学5年生からの夢が変わってないことに親も納得してくれて、2浪させてもらいました。なんとか大学に入学し、夢への一歩を踏み出すことができました。

今思えば、夢を言葉にしたことにより、私に関わるいろいろな人が背中を押してくれたのだと思います。阿部先生にも「吉田ならできる」とおっしゃっていただきました。教員の道を歩み始めた時、一緒に喜んでくれたのも阿部先生でした。中学校、高校の先生からも「やってみろ！やるべきだ！」と言っていました。そのように言ってもらって、さらに夢が膨らみ、前を向いて歩こうと思うようになったと感じています。

大学4年の夏、教員採用試験の9日前に、以前お知らせした交通事故に遭いました。担架で運ばれて教員採用試験を受験はしたものの、受かるはずはありません。やむを得ず、1年留年することになりました。その時、一旦教員になることをあきらめかけました。それでも、親や仲間など、周りにいてくれた人々が、また背中を押してくれました。そのおかげで、今教員人生を歩んでいます。

子供たちは、年齢相応の夢をもっていると思います。身近にいる人だったり、テレビなどで見る芸能人だったり、スポーツ選手だったり憧れる人がいることでしょう。その憧れが夢だと思います。自分の夢を冷かされたり、からかたりされると、夢を言葉として吐き出すことができにくくなります。自分の夢を言葉として語ることができる、それを教職員や友達が受け入れてくれる、受け入れてもらったことで、あきらめないで努力しようとする、そんなぬまっこになってほしい。これが私の今の夢です。